

## 柏の景気情報（平成20年6月分）

### 柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成20年6月分）

○ 調査期間 : 平成20年6月17日 ~ 6月23日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

### <産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	80	72.1%
建設	19	16	84.2%
製造	26	18	69.2%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	23	17	73.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年6月の調査結果のポイント】

〈業況DIは再びマイナス四〇台へ悪化、原材料高騰の影響が拡大〉

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲10.8ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲47.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲58.6(同▲40.7)、製造業▲22.2(同▲5.2)、建設業▲43.7(同▲42.8)である。

【建設業】では、「良い結果は見られない」(一般土木建築工事業)、「季節商品(エアコン)・改修工事等で頑張っているの、好転といえるかどうか？下請けの現場は相変わらず利益は望めない」(電気工事業)といった、利益確保困難の声の他、「業界長が変わり、新たな手腕に期待します」(土木工事業(舗装、しゅんせつを除く))といったコメントが寄せられた。

【製造業】では、「エレベーターの確認申請の手続きに本年4月より一級建築士事務所設立で自社の申請を行う業務となり、本年9月まで暫定措置として旧来の姿で申請も受け付けていたが、いよいよ9月で設立を行わなくてはならなくなり、諸費用の大幅な増となり、一層経営が苦しくなった」(その他の設備工事業)といった、建築確認申請の影響のコメントが寄せられている。また、「東北地方へ加工委託している部品に「宮城地震」の影響が出てきそうである」(その他の機械・同部分品製造業)とのコメントも寄せられた

【卸小売業】では、「当店および他店においても、食料品は堅調です。しかし婦人服や紳士服などファッション商品については、各店厳しい状況が見られます」(百貨店)、「二週目に入ると、主力の衣料品を中心に動きが鈍化し、売上高は伸び悩んだ。全体では昨年7・8回大型店導入による工事休業が発生していたプラス要因で、前年を上回っているものの、個店別にみると既存店舗の苦戦が目立つ」(各種商品小売業)といった、商品売り上げ状況に関する声が多く寄せられた。また、「仕事量(売上高)の落ち込んだこれからは、安全点検が大切。配管点検、老朽化設備と機器の一掃、器具の正しい取り扱いなどの周知と保安啓発活動を一層図り、あきらめずに努力すれば、おのずと評価ありとの信念を貫いている」(燃料小売業(ガソリンスタンド含まず))といった、顧客離れへの対策の声も寄せられ

【サービス業】は、「柏が中核市になり、保健所による店舗検査が実施されようとしています。私たちの組合が一番神経を使う消毒衛生の面で、十分に注意をはらっていくように、組合員さん達に申し送りをしています」(理容業)といったコメントや、「人件費の減らす方法やメニュー構成の見直し、部分的な値上げを考えています。よりよいサービスの向上と個人店ならではの内容で勝負していきたいと努力しています」(そば・うどん店)という経営改善の声が寄せられた。また、「夕方からの営業で、深夜営業はしていないが、アルバイトが思うように集まらない。深夜営業している店ではどうなのかと他店のことではあるが心配している。外国人労働者の導入も今後考えなければならぬかなと思う」(酒場・ビヤホール)という人材不足に関するコメントが寄せられた。

○原材料高騰

各業種から「材料高騰について顧客も理解はするが、結局は経費に食い込む結果となる」(一般土木建築工事業)、「材料の値上げなど原価が上昇し厳しい業況です」(板金・金物工事業)、「売上は良くなっているが、原料等の高騰により利益は良くなっていない」(その他の鉄鋼業)、「夏物衣料品が若干動いているが、前年数字は取れていない。原材料高騰の影響が飲食店を直撃しており、値上げせざるを得ない状況となっている」(その他の各種商品小売業)といった声が多く寄せられた。

○売上減少

おもに卸小売業や、サービス業から「今月は農水で定めた臨時休業日が多く、売上が減少しております」(食料・飲料卸売業)、「前年同日比で売上客数とも若干落ち込んでいる」(その他の各種商品小売業)、「5月下旬～6月初旬最悪の日が数回あり、開業37年目で最低の日を記録した日がありました」(そば・うどん店)といった声が多く寄せられた。

○受注減少

各業種から「新築物件の減少により、当社の受注も減ってきています。転入転出など移動による多種多様の注文も減ってきています。これからますます影響があると考え、対策中です」(家庭用機械器具小売業)、「当社の加工外注委託先でも他社の仕事が、聞くところによれば7～8割、薄くなってきたようだ」(その他の機械・同部分品製造業)、「弊社の販売先ユーザーは仕事がなく(受注量が減って)四苦八苦している現状では、売上高を伸ばすのが難しい」(塗料卸売業)、といったコメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
見通し	▲28.7	▲6.2	±0.0	▲48.2	▲47.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲10.8ポイント拡大した。

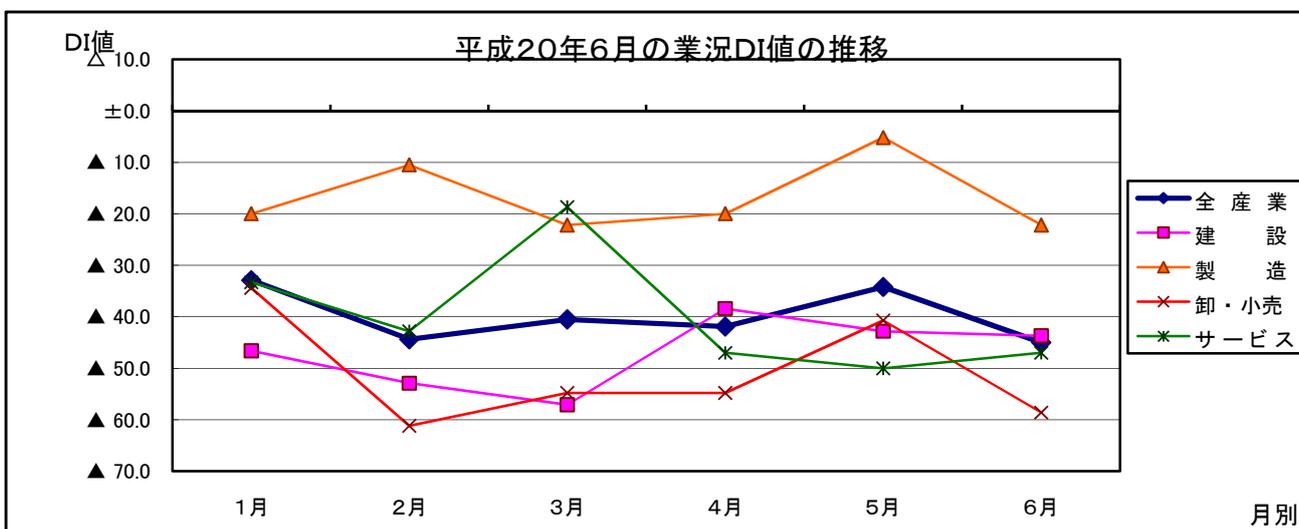
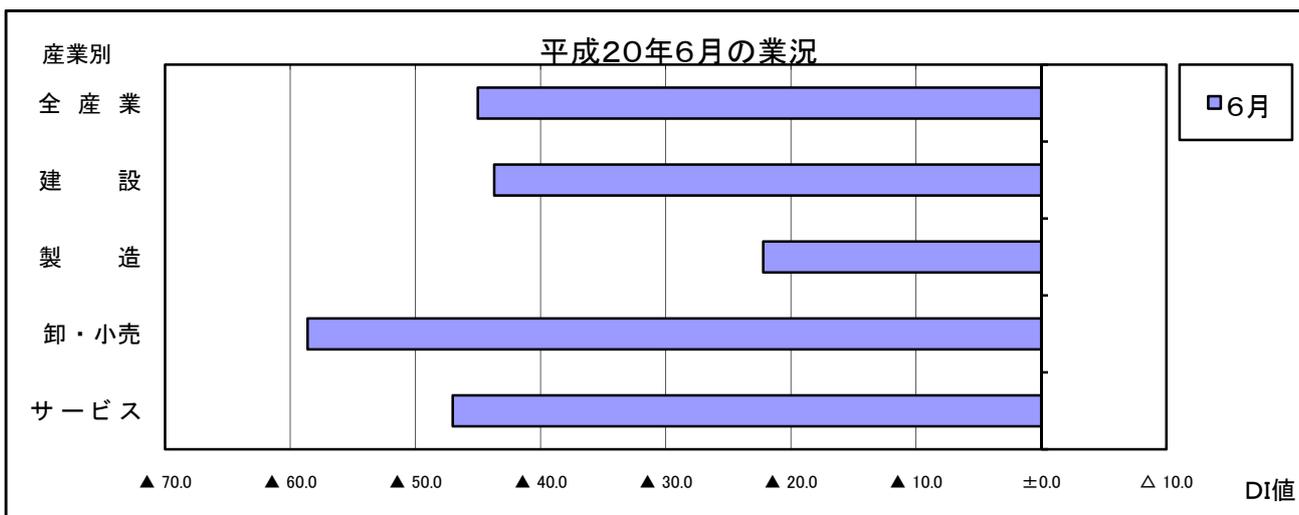
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲47.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲58.6(同▲40.7)、製造業▲22.2(同▲5.2)、建設業▲43.7(同▲42.8)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.7(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が▲6.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲6.2(同▲7.1)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.2(同▲±37.0)、サービス業▲47.0(同▲37.5)である。

平成20年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲ 32.9	▲ 44.4	▲ 40.5	▲ 41.9	▲ 34.2	▲ 45.0	▲ 28.7 ( ▲ 22.3 )
建設	▲ 46.6	▲ 52.9	▲ 57.1	▲ 38.4	▲ 42.8	▲ 43.7	▲ 6.2 ( ▲ 7.1 )
製造	▲ 20.0	▲ 10.5	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 5.2	▲ 22.2	±0.0 ( ±0.0 )
卸・小売	▲ 34.4	▲ 61.2	▲ 54.8	▲ 54.8	▲ 40.7	▲ 58.6	▲ 48.2 ( ▲ 37.0 )
サービス	▲ 33.3	▲ 42.8	▲ 18.7	▲ 47.0	▲ 50.0	▲ 47.0	▲ 47.0 ( ▲ 37.5 )



【平成20年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.7(前月水準▲11.8)となり、マイナス幅が▲11.9ポイント拡大した。

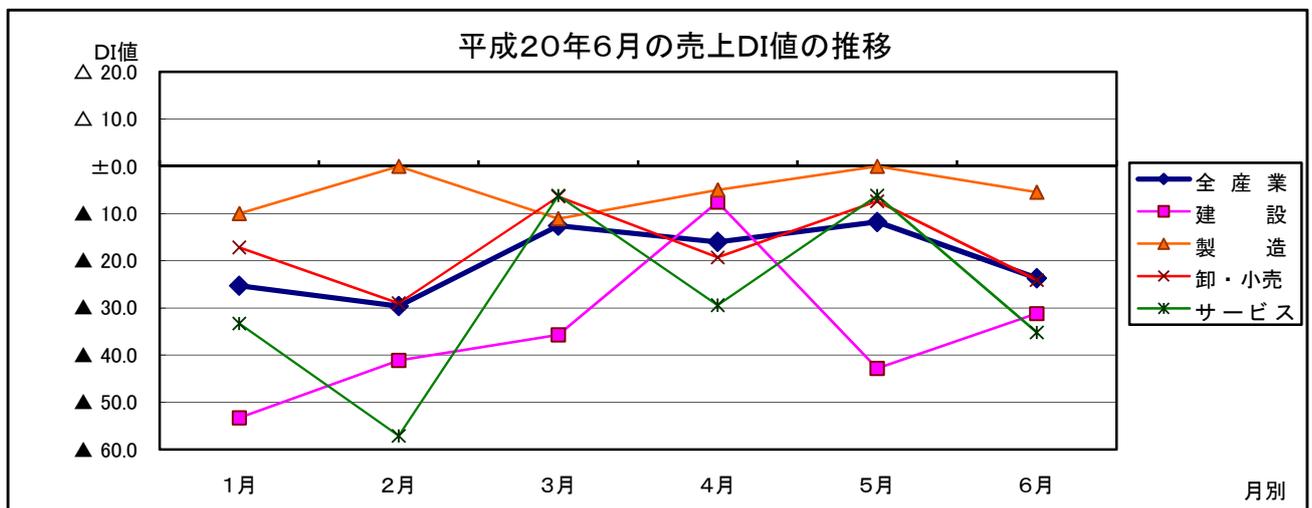
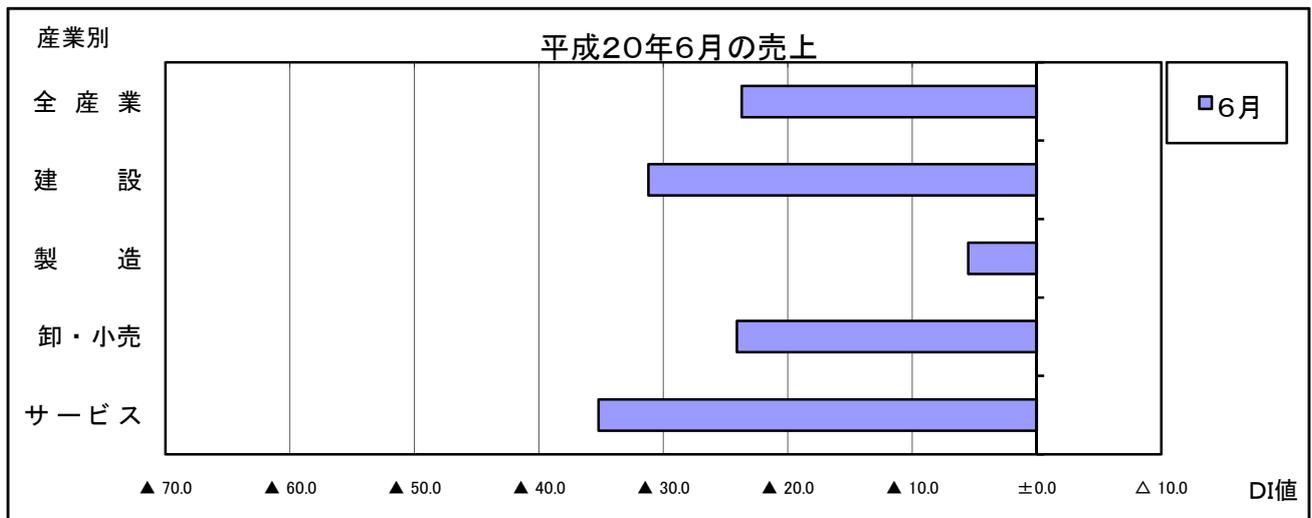
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲31.2(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲6.2)、卸小売業▲24.1(同▲7.4)、製造業▲5.5(同±0.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲29.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.0(前月水準△2.6)となり、マイナス幅が▲12.6ポイント拡大し、プラスからマイナスへと転じる見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△16.6(同△26.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲18.7(同△7.1)であり、マイナス幅へ▲25.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.5(同▲6.2)、卸小売業▲13.7(同▲11.1)である。

平成20年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲25.3	▲29.6	▲12.6	▲16.0	▲11.8	▲23.7	▲10.0(△2.6)
建設	▲53.3	▲41.1	▲35.7	▲7.6	▲42.8	▲31.2	▲18.7(△7.1)
製造	▲10.0	±0.0	▲11.1	▲5.0	±0.0	▲5.5	△16.6(△26.3)
卸・小売	▲17.2	▲29.0	▲6.4	▲19.3	▲7.4	▲24.1	▲13.7(▲11.1)
サービス	▲33.3	▲57.1	▲6.2	▲29.4	▲6.2	▲35.2	▲23.5(▲6.2)



【平成20年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲38.1)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

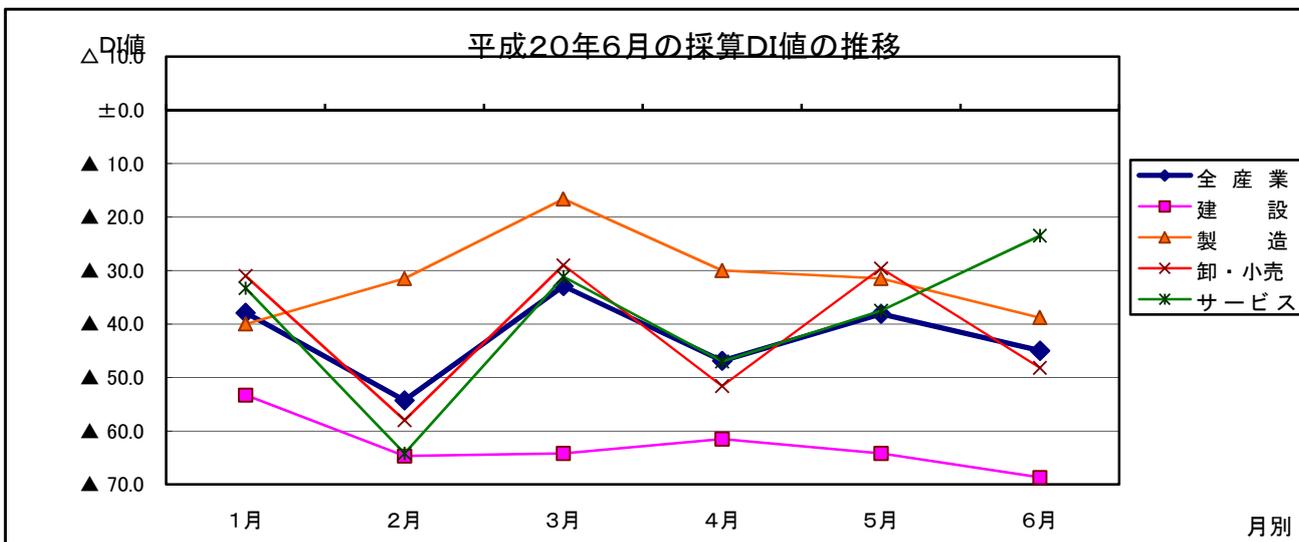
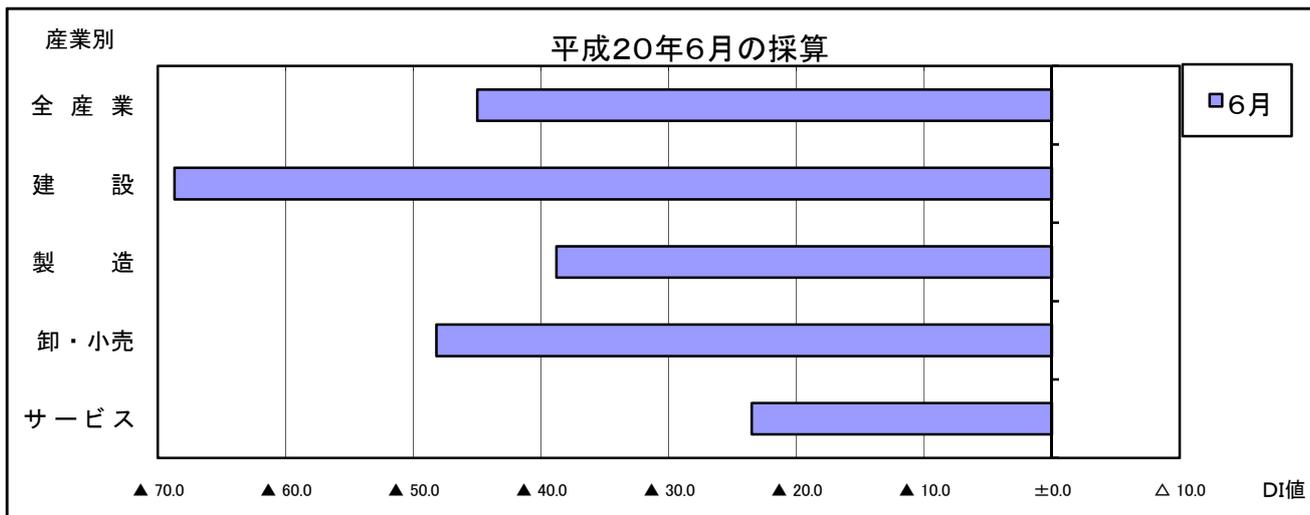
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲23.5(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.2(同▲29.6)、製造業▲38.8(同▲31.5)、建設業▲68.7(同▲64.2)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.5(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が▲11.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が拡大する見通しとなっており、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲22.2)、サービス業▲23.5(同▲12.5)、建設業▲25.0(同▲14.2)、製造業▲16.6(同▲10.5)である。

平成20年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲37.9	▲54.3	▲32.9	▲46.9	▲38.1	▲45.0	▲27.5(▲15.7)
建設	▲53.3	▲64.7	▲64.2	▲61.5	▲64.2	▲68.7	▲25.0(▲14.2)
製造	▲40.0	▲31.5	▲16.6	▲30.0	▲31.5	▲38.8	▲16.6(▲10.5)
卸・小売	▲31.0	▲58.0	▲29.0	▲51.6	▲29.6	▲48.2	▲37.9(▲22.2)
サービス	▲33.3	▲64.2	▲31.2	▲47.0	▲37.5	▲23.5	▲23.5(▲12.5)



【平成20年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲77.5(前月水準▲69.7)となり、マイナス幅が▲7.8ポイント拡大した。

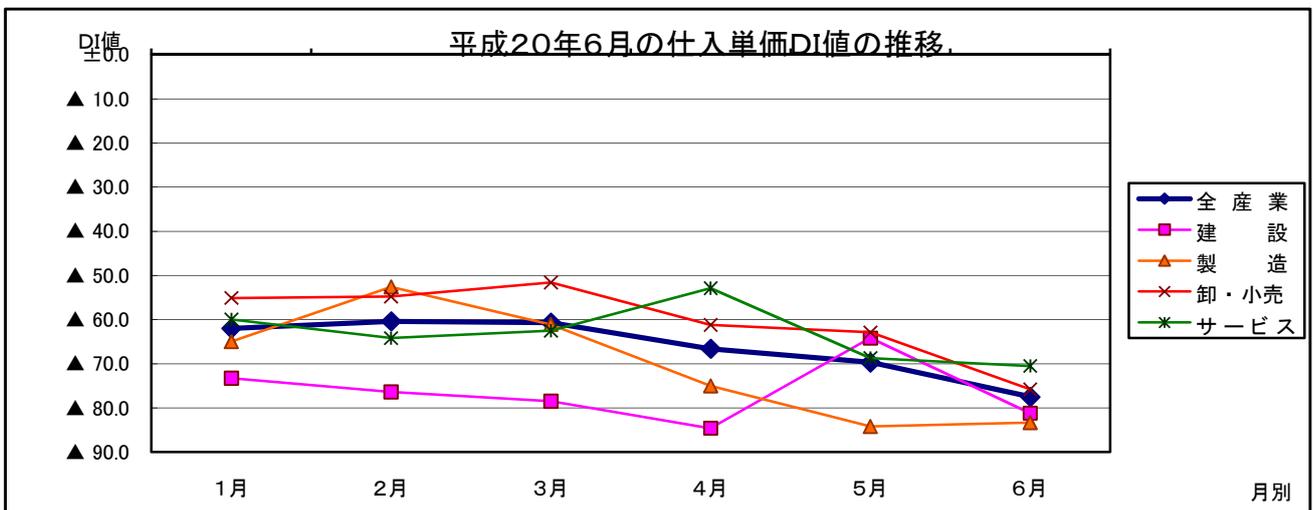
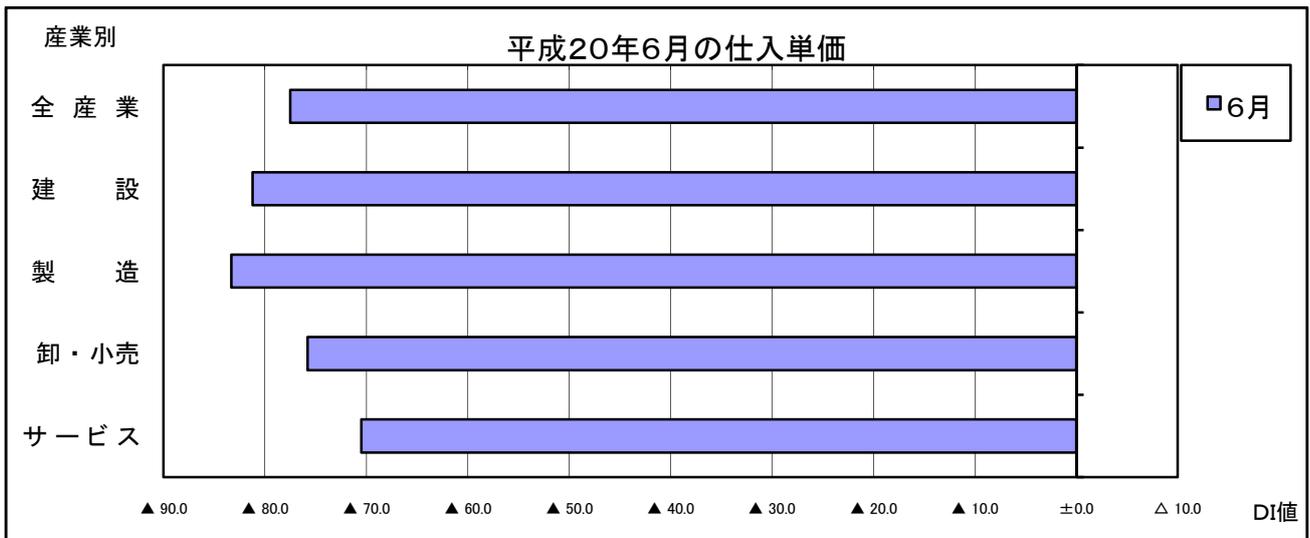
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲83.3(同▲84.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲81.2(同▲64.2)、卸小売業▲75.8(同▲62.9)、サービス業▲70.5(同▲68.7)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲66.2(前月水準▲57.8)となり、マイナス幅が▲8.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、建設業▲50.0(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲70.5(同▲50.0)、卸小売業▲68.9(同▲59.2)、製造業▲72.2(同▲68.4)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲20.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲62.0	▲60.4	▲60.7	▲66.6	▲69.7	▲77.5	▲66.2(▲57.8)
建設	▲73.3	▲76.4	▲78.5	▲84.6	▲64.2	▲81.2	▲50.0(▲50.0)
製造	▲65.0	▲52.6	▲61.1	▲75.0	▲84.2	▲83.3	▲72.2(▲68.4)
卸・小売	▲55.1	▲54.8	▲51.6	▲61.2	▲62.9	▲75.8	▲68.9(▲59.2)
サービス	▲60.0	▲64.2	▲62.5	▲52.9	▲68.7	▲70.5	▲70.5(▲50.0)



【平成20年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.2(前月水準△15.7)となり、プラス幅が▲7.0ポイント縮小した。

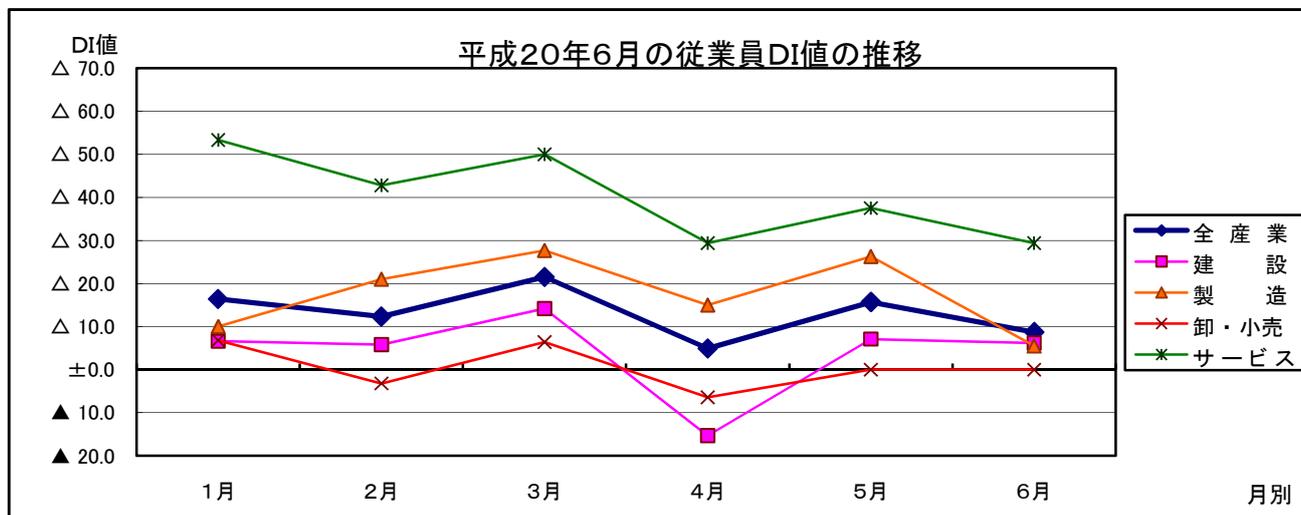
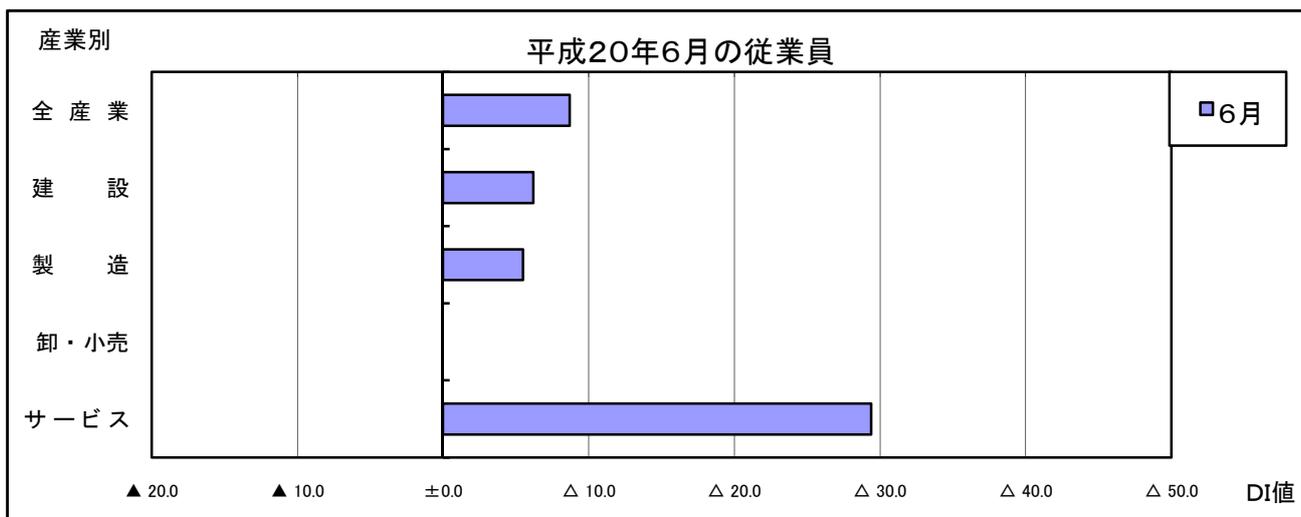
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△5.5(同△26.3)、サービス業△29.4(同△37.5)、建設業△6.2(同△7.1)であり、特に、製造業はプラス幅が▲20.8ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.2(前月水準△15.7)となり、プラス幅が▲9.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△15.7)、サービス業△35.2(同△37.5)、建設業△6.2(同△7.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲6.8(同△7.4)である。

平成20年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△16.4	△12.3	△21.5	△4.9	△15.7	△8.7	△6.2(△15.7)
建設	△6.6	△5.8	△14.2	▲15.3	△7.1	△6.2	△6.2(△7.1)
製造	△10.0	△21.0	△27.7	△15.0	△26.3	△5.5	±0.0(△15.7)
卸・小売	△6.8	▲3.2	△6.4	▲6.4	±0.0	±0.0	▲6.8(△7.4)
サービス	△53.3	△42.8	△50.0	△29.4	△37.5	△29.4	△35.2(△37.5)



【平成20年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大した。

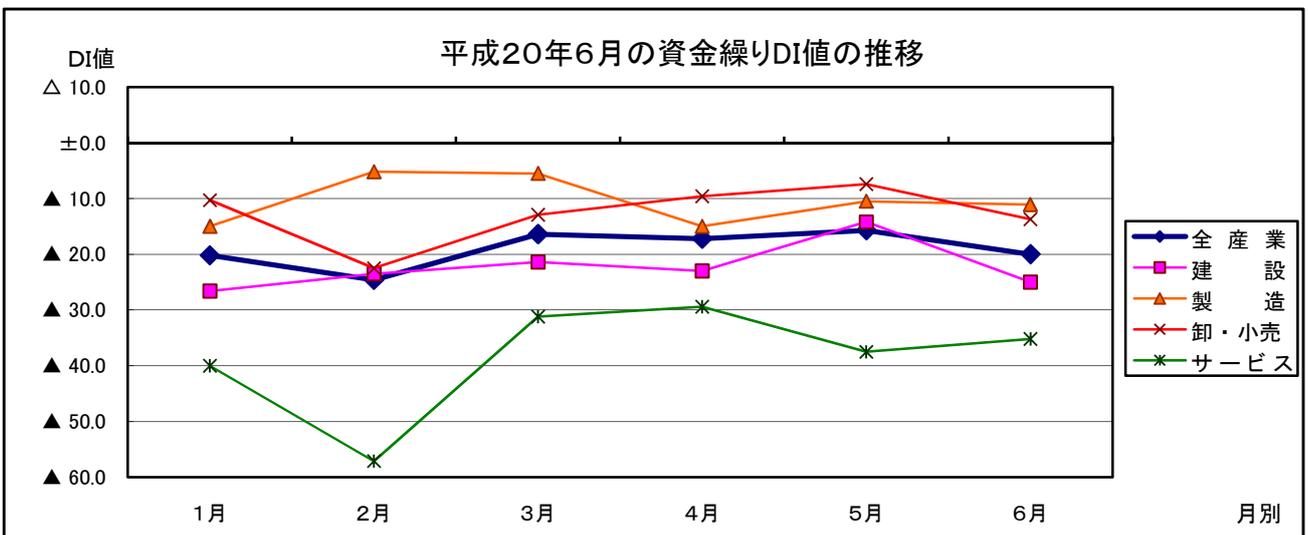
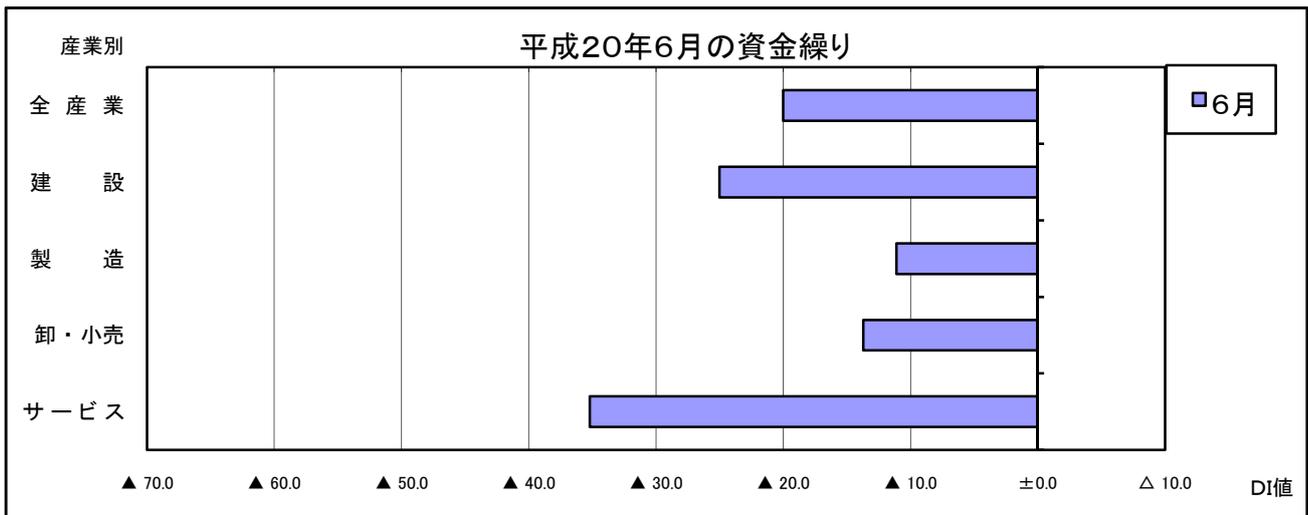
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲35.2(同▲37.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲25.0(同▲14.2)、卸小売業▲13.7(同▲7.4)、製造業▲11.1(同▲10.5)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲11.8)となり、マイナス幅が▲8.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲23.5(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同▲7.1)、製造業▲16.6(同▲5.2)、卸小売業▲20.6(同▲11.1)である。

平成20年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲20.2	▲24.6	▲16.4	▲17.2	▲15.7	▲20.0	▲20.0(▲11.8)
建設	▲26.6	▲23.5	▲21.4	▲23.0	▲14.2	▲25.0	▲18.7(▲7.1)
製造	▲15.0	▲5.2	▲5.5	▲15.0	▲10.5	▲11.1	▲16.6(▲5.2)
卸・小売	▲10.3	▲22.5	▲12.9	▲9.6	▲7.4	▲13.7	▲20.6(▲11.1)
サービス	▲40.0	▲57.1	▲31.2	▲29.4	▲37.5	▲35.2	▲23.5(▲25.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.7	▲ 10.0	▲ 45.0	▲ 27.5	▲ 77.5	▲ 66.2	△ 8.7	△ 6.2
建設	▲ 31.2	▲ 18.7	▲ 68.7	▲ 25.0	▲ 81.2	▲ 50.0	△ 6.2	△ 6.2
製造	▲ 5.5	△ 16.6	▲ 38.8	▲ 16.6	▲ 83.3	▲ 72.2	△ 5.5	±0.0
卸・小売	▲ 24.1	▲ 13.7	▲ 48.2	▲ 37.9	▲ 75.8	▲ 68.9	±0.0	▲ 6.8
サービス	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 70.5	▲ 70.5	△ 29.4	△ 35.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 45.0	▲ 28.7	▲ 20.0	▲ 20.0
建設	▲ 43.7	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 18.7
製造	▲ 22.2	±0.0	▲ 11.1	▲ 16.6
卸・小売	▲ 58.6	▲ 48.2	▲ 13.7	▲ 20.6
サービス	▲ 47.0	▲ 47.0	▲ 35.2	▲ 23.5

【平成20年6月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	材料高騰について顧客も理解はするが、結局は経費に食い込む結果となる	・原材料高騰 ・経費圧迫	一般土木建築工事業
	良い結果は見られない	・好材料なし	一般土木建築工事業
	業界長が変わり、新たな手腕に期待します		土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	材料の値上げなど原価が上昇し厳しい業況です	・原材料高騰 ・厳しい業況	板金・金物工事業
	新築物件の減少により、当社の受注も減ってきています。転入転出など移動による多種多様の注文も減ってきています。これからますます影響があると考え、対策中です	・受注減少 ・多方面の影響	家庭用機械器具小売業
	季節商品(エアコン)・改修工事等で頑張っているのですが、好転といえるかどうか？下請けの現場は相変わらず利益は望めない	・利益確保困難	電気工事業
製造	業界前年比100%	・利益不変	清涼飲料製造業
	売上は良くなっているが、原料等の高騰により利益は良くなっていない	・原材料高騰 ・利益不振	その他の鉄鋼業
	エレベーターの確認申請の手続きに本年4月より一級建築士事務所設立で自社の申請を行う業務となり、本年9月まで暫定措置として旧来の姿で申請も受け付けていたが、いよいよ9月で設立を行わなくてはならなくなり、諸費用の大幅な増となり、一層経営が苦しくなった	・建築確認申請 ・経費増加	その他の設備工事業
	鋳物・鋼材の値上げ要求が多くなっている。当社の加工外注委託先でも他社の仕事が、聞くところによっては7~8割、薄くなってきたようだ。東北地方へ加工委託している部品に「宮城地震」の影響が出てきそうで、	・鋼材値上げ ・受注減少 ・宮城内陸地震	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	今日は農水で定めた臨時休業日が多く、売上が減少しております	・臨時休業日 ・売上減少	食料・飲料卸売業
	当店および他店においても、食料品は堅調です。しかし婦人服や紳士服などファッション商品については、各店厳しい状況が見られます	・食料品堅調 ・衣料品不振	百貨店
	前年同日比で売上客数とも若干落ち込んでいる。主力だったパートが家庭の事情で急に退職したので一時的に人手不足になっている。	・売上減少 ・人材不足	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	顧客離れ防止策について、仕事量(売上高)の落ち込んだこれからは、安全点検が大切。配管点検、老朽化設備と機器の清掃、器具の正しい取り扱いなどの周知と保安啓発活動を一層図り、あきらめずに努力すれば、おのずと評価ありとの信念を貫いている。頑張るのみ	・顧客離れ対策 ・安全点検	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	厳しい毎日です	・厳しい業況	書籍・文房具小売業
	夏物衣料品が若干動いているが、前年数字は取れていない。原材料高騰の影響が飲食店を直撃しており、値上げせざるを得ない状況となっている	・夏物衣料 ・原材料高騰 ・価格転嫁	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	売上が悪くなっています。	・売上不振	婦人・子供服小売業

【平成20年6月の業種別業界内トピックス】

	6月度、月初は入店客数・売り上げともに前年を大きく上回る推移となったが、天候に左右される日が多く、二週目に入ると、主力の衣料品を中心に動きが鈍化し、売上高は伸び悩んだ。全体では昨年7・8回大型店導入による工事休業が発生していたプラス要因で、前年を上回っているものの、個店別にみると既存店舗の苦戦が目立つ。後半にかけては周辺SCがセールに入り、さらに厳しい状況が予想されるが、接客の強化を実施し、売り上げに繋げていく	・天候の影響 ・衣料品不振 ・売上高鈍化 ・接客の強化	各種商品小売業
	ガソリン高騰で消費低迷している。子供には「文具を買う＝100ショップ」かもしれない。学校では習字の授業に使用する筆を100ショップで購入することを推奨していると聞いた	・原油高騰 ・100円ショップ	書籍・文房具小売業
	弊社の販売先ユーザーは仕事がなく(受注量が減って)四苦八苦している現状では、売上高を伸ばすのが難しい	・受注減少	塗料卸売業
サービス	柏が中核市になり、保健所による店舗検査が実施されようとしています。私たちの組合が一番神経を使う消毒衛生の面で、十分に注意をはらっていくように、組合員さん達に申し送りをしています	・中核都市 ・保健所衛生検査	理容業
	4・5月と宿泊宴会ともに良。6月については宿宴会ともやや低調。7月の宴会も低調	・宿泊宴会低調	ホテル
	5月下旬～6月初旬最悪の日が数回あり、開業37年目で最低の日を記録した日がありました。人件費の減らす方法やメニュー構成の見直し、部分的な値上げを考えています。よりよいサービスの向上と個人店ならではの内容で勝負していきたいと努力しています。	・売上減少 ・経営改善 ・サービス向上	そば・うどん店
	夕方からの営業で、深夜営業はしていないが、アルバイトが思うように集まらない。深夜営業している店ではどうなのかと他店のことではあるが心配している。外国人労働者の導入も今後考えなければならないかなと思うが、今のところ考えられない。	・人材不足 ・外国人労働者	酒場・ビヤホール

## 【平成20年6月の多い景気キーワード】

### ◎原材料高騰

- ・ 材料高騰について顧客も理解はするが、結局は経費に食い込む結果となる (一般土木建築工事業)
- ・ 材料の値上げなど原価が上昇し厳しい業況です (板金・金物工事業)
- ・ 売上は良くなっているが、原料等の高騰により利益は良くなっていない (その他の鉄鋼業)
- ・ 原材料高騰の影響が飲食店を直撃しており、値上げせざるを得ない状況となっている (その他の各種商品小売業)

### ◎売上減少

- ・ 今月は農水で定めた臨時休業日が多く、売上が減少しております (食料・飲料卸売業)
- ・ 前年同日比で売上客数とも若干落ち込んでいる。 (その他の各種商品小売業)
- ・ 5月下旬～6月初旬最悪の日が数回あり、開業37年目で最低の日を記録した日がありました。 (そば・うどん店)

### ◎受注減少

- ・ 新築物件の減少により、当社の受注も減ってきています。転入転出など移動による多種多様の注文も減ってきています。 (家庭用機械器具小売業)
- ・ 当社の加工外注委託先でも他社の仕事が、聞くところによっては7～8割、薄くなってきているようだ。 (その他の機械・同部分品製造業)
- ・ 弊社の販売先ユーザーは仕事がなく(受注量が減って)四苦八苦している現状では、売上高を伸ばすのが難しい (塗料卸売業)

## 平成20年6月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲56.0で、マイナス幅が11.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.7に対し、「CCI-LOBO」が▲44.1で、マイナス幅が20.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において良くなっており、建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲54.0で、マイナス幅が9.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲77.5に対し、「CCI-LOBO」が▲59.8で、マイナス幅が17.7ポイント大きい。すべての業種において「柏の景気」の方が悪くなっており、製造業・卸小売業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△8.7に対し、「CCI-LOBO」が▲7.9で、16.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲31.9で、マイナス幅が11.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。

# 平成20年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 45.0	 43.7	 22.2	 58.6	 47.0
CCI LOBO	 56.0	 67.7	 52.4	 57.7	 51.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.7	 31.2	 5.5	 24.1	 35.2
CCI LOBO	 44.1	 62.2	 33.0	 48.7	 40.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 45.0	 68.7	 38.8	 48.2	 23.5
CCI LOBO	 54.0	 70.9	 54.4	 48.2	 53.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 77.5	 81.2	 83.3	 75.8	 70.5
CCI LOBO	 59.8	 71.5	 68.1	 52.6	 56.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.7	 6.2	 5.5	 ±0.0	 29.4
CCI LOBO	 7.9	 25.6	 9.1	 0.2	 3.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.0	 25.0	 11.1	 13.7	 35.2
CCI LOBO	 31.9	 46.6	 34.2	 26.2	 27.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (6月速報)

調査期間：平成20年6月17日～23日  
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種組合等にヒアリング調査を実施。

### 全国の業況 業況はさらに悪化 仕入単価DIIは悪悪の水準に

6月の業況をみると、全産業合計の業況DII(前年同月比)は1.5以下(前月水準は52.9)よりマイナス幅が3.1ポイント拡大し、56.0となり、3カ月連続で悪化するなど、さらに厳しい状況となった。02年2月以来の低水準。

産業別の業況DIIはすべて業種でマイナス幅が拡大した。景気に関する声、当面する問題としては製造など一部に好調(鉄鋼、機械関係の受注増加等)、先行き期待という声があるものの、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上の減少などを訴える声が多く聞かれる。

【建設業】「公共工事の発注が例年に比べて遅く、資材価格の上昇も影響し、売上が予想以上に悪化」(一般事業)、「受注の減少に加え、受注単価の低下により採算が悪化し、倒産も発生」(一般事業)、「受注の確保が困難な中、競争の激化やガソリンなど諸経費の高騰により、収益の確保は厳しい状況」(建築事業)

【製造業】「原材料価格の高騰が続く一方販売価格への転嫁は需要の減少が見込まれ厳しい状況」(パン・菓子製造業)、「受注は前年並みだが、原材料価格が上昇しており、収益は減少」(工業用ゴム製品製造業)、「原油高の影響はすべてで大きく、今後は倒産の増加を懸念」(金属加工機械製造業)

【卸売業】「食品をはじめ、多くの仕入価格の高騰が止まらず、採算が悪化」(各種商品卸売業)、「仕入価格の上昇に伴う販売価格への転嫁を図るも採算の好転までには及ばない状況」(各種商品卸売業)、「値上げを実行したが予想以上に原油価格等が上昇しており、再度値上げをすることは難しく非常に厳しい状況」(建築材料卸売業)

【小売業】「諸物価の高騰に伴う消費者の買い控えの傾向がさらに強くなり、食料品・日用品以外の売上が大幅に減少」(百貨店)、「原油価格高騰の影響により、車での来客数が減少し、売上も悪化」(商店街)、「売上の減少傾向が続く、今月も閉店が発生、商店街の半分が空き店舗となるなど厳しい状況」(商店街)

【サービス業】「原材料価格の高騰が続く中、売上悪化の懸念から販売価格への転嫁は困難な状況」(食堂・レストラン)、「重油、電気、ガス料金等の上昇に伴い、採算が悪化」(旅館)、「売上と採算の悪化に伴い廃業が発生するなど、厳しい状況」(一般飲食店)

【サービス業】「原材料価格の高騰による仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられて

から販売価格への転嫁は困難な状況」(食堂・レストラン)、「重油、電気、ガス料金等の上昇に伴い、採算が悪化」(旅館)、「売上と採算の悪化に伴い廃業が発生するなど、厳しい状況」(一般飲食店)

### 六月のキーワード 更なる悪化への懸念

各業種から業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が寄せられている。建設からは、「原油価格の高騰に伴う諸経費の増加に歯止めがかからず、今後はさらに厳しい状況となる見込み」(習志野・土木工事業)、「採算の悪化に伴い倒産が増加する一方資金繰りも厳しくなるなど、非常に厳しい状況」(松山・電気工事業)とのコメント、製造からは、「5月、6月と例年にならぬほど受注が減少し、今後も厳しい状況が続く見込み」(熊本・その他の製造業)との声が寄せられている。また、小売からも、「原油・原材料価格の高騰は、お中元ギフトの価格にも影響しており、受注件数の減少を懸念」(盛岡・百貨店)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇、各業種から原材料価格の高騰による仕入コストの更なる上昇を訴える声が寄せられて

いる。建設からは、「昨年に比べて鉄の価格が2倍になるなど、収益の確保が難しい状況」(焼津・土木事業)とのコメント、製造からは、「資材価格の高騰や製造コストの上昇により、経営は赤字採算」(函館・水産食料品製造業)、「小麦粉価格が前年比で2倍となるなど、原材料価格がすべて値上がりしており、収益が大幅に減少」(池田・パン・菓子製造業)との声が寄せられている。また、小売サービスからも、「原油価格の高騰に伴い、光熱費等の経費が増加」(一宮・百貨店)、「食材・包装資材・光熱費等の上昇が収益を圧迫」(西条・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下、原油価格の高騰、食料品をはじめ各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰に伴う消費意欲の低下により、衣料品や高額商品の売上が悪化」(盛岡・百貨店)、「来客数の減少など、月を追うごとに厳しい状況となっている」(金沢・百貨店)、「お中元商戦が始まったが、売上は前年比で大幅に減少する見込み」(静岡・百貨店)とのコメント、サービスからは、「外食

を控える傾向が見られ、来客数・売上ともに悪化」(釜石・食堂・レストラン)、「以前に比べて日帰り客が増加し、宿泊客数は減少」(長野・旅館)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
2月	▲47.5	▲57.7	▲40.3	▲57.7	▲49.1	▲42.7
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
4月	▲50.4	▲64.6	▲43.1	▲53.6	▲52.8	▲44.4
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
見通し	▲52.1	▲60.5	▲50.4	▲44.8	▲54.2	▲48.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDII